（別紙4）　　令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3610125381		
法人名	医療法人　栄寿会		
事業所名	グループホーム　ひかる		
所在地	徳島市名東町1丁目91番地		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和2年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームひかるは眉山のふもとの静かな住宅街にあります。2Fの窓からは春は桜・秋は紅葉と四季おりおりの自然を楽しんでいただけます。また、法人理念である「和顔愛護」として優しい笑顔と思いやりのある言葉使いで自分と周囲の人々を幸せにするを心がけ、利用者様が毎日を笑顔で過ごしていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、同一法人の運営する他サービス施設や医療機関と併設しており、行事や地域との付きあいについても、連携して取り組んでいる。同一法人の理学療法士や看護師、管理栄養士と連携し、話しあいつつ、生活機能向上に向けた介護計画を作成している。医療機関とも連携体制を整備し、重度化や急変時などの対応についても、適切に支援することで、利用者や家族等、職員の安心につなげている。人材育成や介護技術の向上に力を入れ、法人内研修や事業所内の勉強会で、介護技術や人権尊重、プライバシー確保等について学習する機会を設けるなど、サービスの質の向上に努めている。感染症の流行下において、事業所内での行事やレクリエーション等を工夫しつつ、利用者が新たな楽しみを見つけることができるよう支援に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、法人理念である「和顔愛語」について、内部職員研修にて理解し、また共有して、入居者様への介護の実践に活かせるように努めている。	事業所では、週1回、申し送りの際に理念を唱和する機会を設け、職員間での共有化を図っている。新人職員には、法人内の研修や事業所内のオリエンテーションで理念について伝え、全職員で理念にそった支援ができるよう、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウィルスの関係で近隣の小学校や保育園からの訪問はありませんでしたが、町内会の清掃活動に参加し、終息されれば法人行事の夏祭りや運動会にまた参加していただく予定です。	事業所は、町内会に加入し、地域行事等の情報を得たり、地域の清掃活動に参加したりして、地域との交流を図っている。感染症（コロナ等）の流行下においては、地域の方から運営面での提案を受けて、支援に活かすなど、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議（現在は書面会議にて）に町内会・長寿会の方々に参加して頂き、高齢者ケア等についても発表し地域の方に活かしていただいています。また、返答を頂き施設でも参考にさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて議題に掲げ、サービス内容や現状の報告し意見を頂き、それを実践できるよう、職員間で共有している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面を送付し、各委員から意見を得ている。得られた意見は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。管理者は、家族や民生委員等の委員を増やし、さらに活発な会議となることを目指している。	今後も、家族や民生委員等へ会議への出席に向けた働きかけを続けられたい。多様なメンバーで意見や情報の交換を行うことで、さらなる会議の発展につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告書を提出時に、市のながいき課、担当者の方と意見・情報交換を行っている。（現在はコロナウィルス予防の為郵送で行っていますが、必要に応じて担当者様に確認しています）	感染症の流行に伴い、実績報告等は市の担当窓口に、郵送している。手続きの際等は、職員が市の担当窓口に出向き、その際に相談等も行っている。また、電話等でも相談し、助言を得るなど、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法人内での、職員内部研修に参加し、身体拘束の禁止基準を正しく理解し身体拘束をしないケアを取り組んでいる。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催している。職員は、法人内での身体拘束に関する勉強会に参加し、禁止の対象となる行為やその弊害について理解を深めている。日中は玄関を開錠し、見守りにより、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	8月19日に身体拘束と虐待防止についての内部研修が行われ、参加できない職員は研修資料を読み虐待の予防の徹底に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合には法人内の専門職と共に利用者様の自己の権利が表明できるよう内部研修なども利用し学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様に、入居時の契約説明を行う時には、疑問や不安に思うことがあればいつでも言っていただくように説明し、理解し納得された上で同意書に記入していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているほか、意見や要望等があれば気軽に話していただけるように、日頃から家族様ともコミュニケーションをとるようにしている。	職員は、利用者との日ごろの会話のなかで意見や要望を聞いている。家族等については、来訪時等に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においては、事業所だよりや電話連絡等で、利用者の日ごろの様子を伝え、意見等を引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週火曜日に行われている職場連絡会や各種委員会にて現場の声を聞いてもらえる体制が組まれている。	管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を伝えやすい関係づくりに努めている。年2回、個別面談を行い、意見を聞く機会を設けている。出された意見は、職員間で検討したり、法人の職場連絡会等で伝えたりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2019年4月より人事考課制度を導入し、努力や成果を上げている職員を報いる仕組みです。グループ理念をもとにした行動指針を基準に評価し職員を育成する仕組みになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員は法人内での介護技術向上委員会により、実技指導の後チェックリストにて個々の技術向上に向けた研修を毎月行っている。内部研修・外部研修への参加や介護福祉士やケアマネの資格取得のための勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染症の関係で今年は看護学生・大学生等の研修を受け入れていないが、グループ内で、主任・副主任研修を行い交流・ネットワークにて情報交換をし、サービスの質を向上させています。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に要望などを確認するほか、入居されてからも困ったことがないか声かけし、問題があった場合は職員で話し合い解決の糸口を探すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様に要望を確認し、入居された後も面会時など家族さんが来られた時に声かけし、状況等を伝え、また要望があれば、それに沿った支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人様の心身の状態・家庭環境等をカンファレンスし、家族様に説明・同意を頂きケアプランに反映しサービスの利用を開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後にお盆を拭いてもらったり、洗濯物を一緒にたたんでもらったりした時に、職員が助かっていることを伝え感謝することで自分の居場所があることを感じていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時又はカンファレンス時にホームでの生活状況をお伝えし、ご家族の要望も取り入れながら、利用者様を家族様と共に支えていけるよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方がいつでも気軽に来られるような環境を作り、また家族様と外出出来るよう支援している。(現在はコロナウィルス予防の為、外出制限中です。)	事業所では、家族や友人、知人の来訪時には、ゆっくり話ができるように配慮している。感染症の流行下においては、実家の近くや仕事場の近くまでドライブしたり、年賀状や暑中見舞いのやり取りを支援したりして、馴染みの関係の継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より利用者様同士の関係を把握し、職員が声掛けしたり、体操等、またおやつの時など皆様が楽しめる時間を作り、職員が間に入り利用者様同士の交流ができるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設や病院に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。また、家族様より相談等もあり支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中、又は観察にてその人の思いや暮らし方を、チームケアで考え、本人様・家族様と相談し検討している。	職員は、利用者や家族等から、これまでの生活歴や好きなもの等を聞き取り、思いや意向の把握に努めている。日ごろの支援のなかで、いつもと違う表情や仕草等に注目し、朝、夕の申し送り時に職員間で共有して、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の相談時、又は3ヶ月毎のカンファレンス時に、本人様・家族様にこれまでの生活歴・暮らし方、生活環境を聞き取り、サービスの経過・状況等について話し合い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に変化があった方は、申し送りやケア記録・連絡ノートに記載し職員間で共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様とカンファレンス等で課題とケア等についても話し合い、理学療法士とも連携し、必要に応じて介護用具の使用も考え、常にケアの改善に努め介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族等、医師、看護師、理学療法士等の意見を踏まえ、生活機能向上に向けた介護計画を作成している。3か月に1回、モニタリングと見直しを行っている。心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のケア記録に記載して、重要な事は、連絡ノートに記載し、他の職員が回覧しサインし職員間で共有している。また、カンファレンスで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況、その時々に課題等が発生された場合、柔軟な支援・サービスが行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、来訪し楽しく話しながら散髪をされ、いつも来られるのを楽しみにされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人様及び家族様にかかりつけ医の相談・希望を確認し、医療機関と連携し月3回医師・看護師の往診を行っている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。車イスを利用する方は、職員が付きそうなど、状況に応じて家族と協力しつつ、支援している。必要に応じて、歯科医の往診もある。夜間の医療連携体制も整え、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員が在籍し、常に相談し異常があれば医療機関の看護師・医師にも伝え指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院検討委員会に参加し、協力医療機関内の地域連携室職員と連携し、情報交換又は、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人様・家族様への説明の時に、重度化した場合の対応を説明し同意されて、同意書にサインを頂き、医療に関する意思確認書にも記入して緊急時に対応している。	入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、意向を確認している。事業所内で、看取りに関する勉強会を開催したり、法人内の研修に参加したりして、利用者や家族等の希望にそった支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるように、症状別緊急対応マニュアルがある。また、職員内部研修でも緊急時の対応について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を実施している。新人職員には消化器の使用方法の説明もし、また町内会の防災訓練にも参加している。	年2回、法人内での合同訓練に参加している。年1回、職員間で垂直避難の訓練も行っている。手作りの防災ずきん等を準備して、災害時に備えているが、事業所独自の訓練を行ったり、備蓄品を準備するまでには至っていない。	今後は、利用者の安心・安全の確保につながるよう、事業所独自での訓練にも取り組まれたい。また、事業所独自でも備蓄品を整備するなど、さらなる取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念（和顔愛語）に基づき個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声掛けを行なっている。　　また、本人のプライバシー等についても尊重している。	職員は、排泄支援の際等、プライバシーを損ねないよう配慮している。法人内で介護技術向上に向けた計画があり、人権尊重やプライバシーの確保について、職員が学ぶ機会を設けている。職員間でも声をかけあいつつ、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を伺うことの他に、選択が困難な 方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースを日頃の様子または、カンファレンス等で話し合い、 利用者様本位のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が気に入った服を着てもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけし、上に羽織る等その時その時に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会の日には、お寿司・お赤飯・天ぷら盛り合わせ等いつもと違う食事形態にし、食事を楽しんで頂くよう支援している。 また、片付け時のお盆拭き等は利用者様と一緒に畳んでいる。	事業所では、炊飯や盛り付け、利用者一人ひとりの状況に合わせた食事形態へ変更を行っている。利用者には、お盆やテーブル拭きなど、できることで役割を担ってもらっている。月1回、栄養マネージメント委員会があり、利用者の好み等を献立に反映している。誕生日には、特別なメニューを用意したり、おやつづくりを行ったりして、食事が楽しみなものになるよう、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと厨房より食事の提供があり、盛り付けは職員が個々の食事形態に合わせ刻んだり、ミキサーにかけ行っており。水分は、ペットボトルにお茶等を入れいつでも飲めるよう提供しお茶の時間にも水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。自分で出来ない方には、職員が介助をし口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、排泄パターンを把握し、その人にあった対応を行っている。排泄に失敗して衣類を汚した方には、プライドを傷つけないよう声かけし更衣介助をしている。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄パターンに応じて、さりげない声かけで誘導し、トイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブルトイレを利用する方もいる。利用者一人ひとりの状態や希望にあわせて、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、状態に応じて、食事・水分・下剤等で便秘にならないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴をたのしんでもらうため、午前・午後に分けて入浴出来るよう支援している。外出、外泊等必要に応じても対応し週2・3回入浴できるよう配慮している。	事業所では、週2～3回の入浴ができるよう支援している。入浴を拒む方には、声かけや職員を変えるなどして、無理強いすることなく入浴を支援している。希望に応じて、同性介助も行っている。毎日、使用する入浴剤を変えるなどして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。腰が痛い等、日中横になりたい方は、介助が必要な方は介助し対応している。また、医師の指示があり眠剤が必要な方は内服介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬ファイル（用量・効能・副作用）を作成し、服薬時は手渡し・介助にてその人にあった介助をし、飲み残しのないよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・お盆拭き等の役割を分担してもらっている。また、その時期の物を折り紙等で作成し壁飾り工作も手伝っていただいている。天気の良い日には散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防（外出制限）の為、現在外出は控えています。	事業所では、季節の花見や外食等に出かけている。感染症の流行下においても、敷地内を10分程度散歩したり、ドライブに出かけたりして、気分転換を図っている。今後は、感染症の流行状況や人出を考慮しつつ、菊人形を見に行くことを検討中である。	

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し、必要があれば入居者様の能力に応じて、お小遣い程度のお金を持ってもらい本人様が安心出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へ電話ができるよう支援をしている。また、本人が電話を掛けれない場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が見え癒しの空間となっており、また、ホールや通路の壁には季節の工作を飾り心地よく過ごして頂くよう工夫している。	共用空間には、季節の花を生けたり、利用者と一緒に作成した貼り絵や手芸品等を飾ったりして、季節を感じることができるよう取り組んでいる。大きなソファを設置し、利用者が寛ぐことができるよう工夫している。動線等に配慮して家具の配置を行い、安心・安全な空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個人、入居者様同士、また、家族様とホール・食堂・居室等、本人様が気に入られた場所で過ごされるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様や家族様と相談し、家具やお箸・スプーン等,日頃から使い慣れた物を持って来られ、自宅のように落ち着いて過ごせるよう支援している。	居室には、利用者の使い慣れた家具や調度品等を持ち込んでもらっている。家族や行事の写真、趣味の手芸品等を飾り、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができる、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、自分の力で出来るように、トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置し、利用者様に応じて居室の入り口に大きくわかりやすい表札も設置している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、法人理念である「和顔愛語」について、内部職員研修にて理解し、また共有して、入居者様への介護の実践に活かせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウィルスの関係で近隣の小学校や保育園からの訪問はありませんでしたが、町内会の清掃活動に参加し、終息されれば法人行事の夏祭りや運動会にまた参加していただく予定です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議（現在は書面会議にて）に町内会・長寿会の方々に参加して頂き、高齢者ケア等についても発表し地域の方に活かしていただいています。また、返答を頂き施設でも参考にさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて議題に掲げ、サービス内容や現状の報告し意見を頂き、それを実践できるよう、職員間で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告書を提出時に、市のながいき課、担当者の方と意見・情報交換を行っている。（現在はコロナウィルス予防の為郵送で行っていますが、必要に応じて担当者様に確認しています）		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法人内での、職員内部研修に参加し、身体拘束の禁止基準を正しく理解し身体拘束をしないケアを取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	8月19日に身体拘束と虐待防止についての内部研修が行われ、参加できない職員は研修資料を読み虐待の予防の徹底に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合には法人内の専門職と共に利用者様の自己の権利が表明できるよう内部研修なども利用し学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様に、入居時の契約説明を行う時には、疑問や不安に思うことがあればいつでも言っていただくように説明し、理解し納得された上で同意書に記入していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているほか、意見や要望等があれば気軽に話していただけるように、日頃から家族様が面会の来られた時には、コミュニケーションもとるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週火曜日に行われている職場連絡会や各種委員会にて現場の声を聞いてもらえる体制が組まれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2019年4月より人事考課制度を導入し、努力や成果を上げている職員を報いる制度を導入しています。グループ理念をもとにした行動指針を基準に評価し職員を育成する仕組みになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員は法人内での介護技術向上委員会により、実技指導の後チェックリストにて個々の技術向上に向けた研修を毎月行っている。内部研修・外部研修への参加や介護福祉士やケアマネの資格取得のための勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染症の関係で今年は看護学生・大学生等の研修を受け入れていないが、グループ内で、主任・副主任研修を行い交流・ネットワークにて情報交換をし、サービスの質を向上させています。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に要望などを確認するほか、入居されてからも困ったことがないか声かけし、問題があった場合は職員で話し合い解決の糸口を探すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望などを確認し、入居された後も面会時など家族さんが来られた時に声かけし、状況等を伝え、また要望があれば、それに沿った支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人様の心身の状態・家庭環境等をカンファレンスし、家族様に説明・同意を頂きケアプランに反映しサービスの利用を開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後にお盆を拭いてもらったり、洗濯物を一緒にたたんでもらったりした時に、職員が助かっていることを伝え感謝することで自分の居場所があることを感じていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時又はカンファレンス時にホームでの生活状況をお伝えし、ご家族の要望も取り入れながら、利用者様を家族様と共に支えていけるよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方がいつでも気軽に来られるような環境を作り、また家族様と外出出来るよう支援している。(現在はコロナウィルス予防の為、外出制限中です。)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より利用者様同士の関係を把握し、職員が声掛けしたり、体操等、またおやつの時など皆様が楽しめる時間を作り、職員が間に入り利用者様同士の交流ができるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設や病院に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。また、家族様より相談等あれば支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中、又は観察にてその人の思いや暮らし方を、チームケアで考え、本人様・家族様と相談し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の相談時、又は3ヶ月毎のカンファレンス時に、本人様・家族様にこれまでの生活歴・暮らし方、生活環境を聞き取り、サービスの経過・状況等について話し合い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に変化があった方は、申し送りやケア記録・連絡ノートに記載し職員間で共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様とカンファレンス等に課題とケア等についても話し合い、理学療法士とも連携し、必要に応じて介護用具の使用も考え、常にケアの改善に努め介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のケア記録に記載して、重要な事は、連絡ノートに記載し、他の職員が回覧しサインし職員間で共有している。また、カンファレンスで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況、その時々に課題等が発生された場合、柔軟な支援・サービスが行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、来訪し楽しく話しながら散髪をされ、いつも来られるのを楽しみにされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人様及び家族様にかかりつけ医の相談・希望を確認し、医療機関と連携し月3回医師・看護師の往診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員が在籍し、常に相談し異常があれば医療機関の看護師・医師にも伝え指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院検討委員会に参加し、協力医療機関内の地域連携室職員と連携し、情報交換又は、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人様・家族様への説明の時に、重度化した場合の対応を説明し同意されて、同意書にサインを頂き、医療に関する意思確認書にも記入して緊急時に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるように、症状別緊急対応マニュアルがある。また、職員内部研修でも緊急時の対応について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を実施している。新人職員には消化器の使用方法の説明もし、また町内会の防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念（和顔愛語）に基づき個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声掛けを行なっている。　また、本人のプライバシー等についても尊重している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を伺うことの他に、選択が困難な 方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースを日頃の様子または、カンファレンス等で話し合い、 利用者様本位のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が気に入った服を着てもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけし、上に羽織る等その時その時に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会の日には、お寿司・お赤飯・天ぷら盛り合わせ等いつもと違う食事形態にし、食事を楽しんで頂くよう支援している。 また、片付け時のお盆拭き等は利用者様と一緒に畳んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと厨房より食事の提供があり、盛り付けは職員が個々の食事形態に合わせ刻んだり、ミキサーにかけ行っており。水分は、ペットボトルにお茶等を入れいつでも飲めるよう提供しお茶の時間にも水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。自分で出来ない方には、職員が介助をし口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、排泄パターンを把握し、その人にあった対応を行っている。排泄に失敗して衣類を汚した方には、プライドを傷つけないよう声かけし更衣介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、状態に応じて、食事・水分・下剤等で便秘にならないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴をたのしんでもらうため、午前・午後に分けて入浴出来るよう支援している。外出、外泊等必要に応じても対応し週2・3回入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。腰が痛い等、日中横になりたい方は、介助が必要な方は介助し対応している。また、医師の指示があり眠剤が必要な方は内服介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬ファイル（用量・効能・副作用）を作成し、服薬時は手渡し・介助にてその人にあった介助をし、飲み残しのないよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・お盆拭き等の役割を分担してもらっている。また、その時期の物を折り紙等で作成し壁飾り工作も手伝っていただいている。天気の良い日には散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防（外出制限）の為、現在外出は控えています。		

自己	外部	項　目	自己評価　ユニット2 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し、必要があれば入居者様の能力に応じて、お小遣い程度のお金を持ってもらい本人様が安心出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へ電話ができるよう支援をしている。また、本人が電話を掛けれない場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が見え癒しの空間となっており、また、ホールや通路の壁には季節の工作を飾り心地よく過ごして頂くよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個人、入居者様同士、また、家族様とホール・食堂・居室等、本人様が気に入られた場所で過ごされるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様や家族様と相談し、家具やお箸・スプーン等,日頃から使い慣れた物を持って来られ、自宅のように落ち着いて過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、自分の力で出来るように、トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置し、利用者様に応じて居室の入り口に大きくわかりやすい表札も設置している。		